

令和7年10月24日

東員町議会

議長 南部 豊 様

東員町議会 伊藤 治 雄

研修報告書

研修期間	令和7年10月15日（水）～16日（木）【2日間】
研修（視察）先	滋賀県米原市 石川県小松市
目的（テーマ等）	米原市     デマンド交通について 小松市     ライドシェアについて
参加議員名 （複数の場合）	伊藤治雄、山田由紀子、三宅耕三、水谷喜和、島田正彦、大谷勝治
資料添付の有無	有     ・     ⑧

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

## ■米原市（デマンド交通について）

### 市の概況（2025 年 10 月 1 日時点）

人口 36,624      世帯数 15,119      高齢化率 31.2%  
面積 250.39 平方キロメートル  
森林総面積 158.04 平方キロメートル（63%）

### 乗合タクシー「まいちゃん号」

- ・市全域を網羅…西地域 11 エリア、東地域 8 エリア
- ・100～200m感覚で停留所有（地域要望と必要性を考慮）
- ・沿革
  - H16.10～      旧米原町で路線バス運行廃止に伴い公共交通空白地域の生活の確保のため小型タクシーにより運行開始  
以降路線バス廃止に伴い各地域でエリア拡大
  - H29.10～      「新まいちゃん号」  
市内で乗り換えなしで運行  
市外の病院・買い物が乗り換えなしで運行（別途料金必要）
- ・サービス領域の検討
  - 公共交通空白地域から各施設へのアクセスが可能
  - 交通弱者が自由に利用可能
  - 路線バスとタクシーの輸送力と機動性の中間的な輸送特性
- ・運行方式の選定
  - 利用者のいない区間はショートカットし時間短縮
  - 目的施設へ直接移動が可能
  - 無駄な便や区間の運行をしないことによる経費節減
- ・運行概要
  - 車両…4 人乗りの小型タクシー
  - 運行日…年中無休
  - 料金…大人 800 円、こども・障がい者等 400 円
  - 運行時間帯…6 時台から 19 時台の毎時 0 分と 30 分
  - 停留所…560 ヶ所、各自治会に 3 ないし 4 ヶ所
  - タクシー料金に対する助成制度を創設
    - 助成額…8000 円（500 円×16 枚、一年間）
    - 対象者…75 歳以上の高齢者、障がい者、高校生、妊婦、乳児の保護者
  - 予約受付、配車、運行などの事業運営はタクシー会社が実施

### 乗合タクシー「まいちゃんバス」

- R2.10 から廃止バス路線の代替交通として 1 路線運行
- ・9 人乗りワゴン車
  - ・予約不要の定時定路線運行、一日 3 往復、22 停留所

- ・まいちゃん号と共通料金

### コミュニティバス（路線バス）

- ・米原市内単独が4路線、長浜市までが2路線
- ・特徴…長浜市の病院利用が可、観光利用、児童の通学利用、工業団地の通勤利用

### 総括

- ・令和7年度予算額(当初)
  - コミュニティバス 52,000 千円、乗合タクシー91,000 千円、
  - タクシー助成 4,000 千円（内県補助金 17,340 千円、市負担 40,000 千円）
- ・「まいちゃん号」の利用人員は増加傾向にあるが経費も増加
- ・アクセシビリティ指標（乗降地の徒歩時間、乗降時間等）は改善し、交通空白地帯の解消、利用者の利便性向上に寄与
- ・研究効果として費用負担額は大幅に増加しているが単なる赤字ではなく他分野への波及効果が考えられ多面的に効果有

⇒福祉よりも市民の豊かさに貢献している感が強い。また、総事業費も 140,000 千円を超えているとのことであるが、本事業はそれに見合う住民サービスの提供と理解した。

本町においても、住民の意見を参考に複合的な公共交通サービス手法の検討が必要と考える。

### 事前質問等から

#### ◇今後の方策や運行を継続するに当たっての課題は

- ・利用者の増加とともに乗合タクシーの運行経費が増加
  - 対応策としては、メーター料金の圧縮による支出削減、1回の運行の利用者数を増加させて収入増加
- ・予約ができない人、停留所まで行けない高齢者などが増加
  - 付き添い乗車の促進、地域サロン等と連携した買物ツアー等の実施
- ・アナログシステムからの脱却（乗合タクシーのDX化）
  - 事務負担軽減だけではなく運行の効率化に向けた利用者データによる細かい分析が必要

#### ◇人材確保の取組状況は

- ・路線バスは運賃値上げにより運転手の処遇改善を実施
- ・乗り合いタクシー車両の限定化を検討
- ・日本版ライドシェア導入は料金メリットがないことや運転手不足から困難と考えるが公共ライドシェアは研究中

#### ◇ルート等民間事業者との競合対応は

- ・競合事業者なし
- ・路線バスから乗合タクシーへの転換を検討検証中

#### ◇持続可能な交通手段として財源確保が大きな課題となると思うが、国県等補助金は

- ・国庫補助金

イニシャル…「交通空白」解消緊急対策事業（DX 化）

共創モデル実証運行事業（交通・福祉・教育の連携）

ランニング…地域公共交通確保維持事業（地域をまたぐ地域間幹線  
系統・幹線枝線に関する地域内フィーダー系統）

・県補助金

ランニング…滋賀県コミュニティバス等運行対策費補助金（全体の 10～  
20%）

### その他の質疑

- ・市民にとっては家まで来てほしいとの要望があるが法的に不可能（そのため  
停留所を約 100m 間隔とした）
- ・事情通の方より東員町は行政面積が小さくデマンド交通に適していると指摘
- ・欠損額と乗合率が課題
- ・住民アンケートや地域に出向いての意見聴取を実施
- ・事業者は近江タクシーしかなく特に問題はなし
- ・ネーミングは市民からの愛着度を考慮
- ・乗っている人は満足するも全体的人気度はいまいち
- ・高齢者や子ども（放課後こども教室や児童クラブ）の利用大

⇒官民間問わずリーダーシップを発揮する人がいることが事業の成功の秘訣と考  
える。また、常に費用対効果を念頭に置き、住民の意向調査を行い逐次事業変更  
を実施すべきである。

## ■小松市（ライドシェアについて）

市の概況（2025 年 9 月 1 日時点）

人口 104,988      世帯数 46,313

面積 371.05 平方キロメートル

森林総面積約 70%

石川県西南部の加賀平野の中央に位置し産業都市として発展

4 つの姉妹都市…ブラジル・スザノ市、ベルギー・ビルボード市、イギリ  
ス・ケイツヘッド市、中国・山東省済寧市

### ライドシェア「i-Chan」

#### 事業概要

##### 目的

- ・北陸新幹線開業を機に住民や来訪者（ビジネス・観光等）の移動の利便性  
向上
- ・能登半島地震で被災された二次避難者の移動確保

##### 実施体制

実施主体    小松市

事業運営    (株)パブリックテクノロジーズ(受託事業者)

運行管理者・整備管理者	小松タクシー
運行区域	小松市全域・能美市・加賀市
運行曜日	木曜日・金曜日・土曜日
運行時間帯	17 時～24 時
運行経緯	R6.3.22 から常時運行開始
ドライバー	面接を経て大臣認定講習を受講した方 一般公募及び市職員の副業(地域貢献活動の一環) 21 歳～70 歳未満・委託契約
運賃	タクシー料金の 8 割、初乗り 1 km まで 400 円、以降 300m 毎に 100 円加算
報酬	運賃の 70%(市内タクシー事業者の率を参考)
手当等	燃料費 15 円/km・夜間手当 500 円/回(22 時以降)・通信費 2,000 円/月
車両	ドライバー持込の乗用車(軽自動車も可)
予約	アプリ「パプテク」で利用時間帯・出発地・到着地を入力

### 総括(今後の取組)

夜 8 時以降の飲食店帰りの利用者が多く、利用日数の増加を要望されている。ドライバーの声として、待機の時間帯が苦痛、泥酔した客の取扱い、待機場の確保等の意見があり、ドライバー確保が一番苦労している。

今後の取組としては、交通サービス運行データの一元管理システムの構築やタクシーとの共同輸送サービスの導入等がある。

また、デマンドタクシーとの中間的運行を目指し乗合型公共ライドシェアの実証運行を南部地区で実施する。

月曜日から金曜日の 8 時から 17 時までの運行も検討する。

⇒利用実績を見てみると運行開始後は徐々に利用者も増加傾向にあったが、令和 7 年度に入ってから減少している。また、利用目的も約 89%が飲食店や居酒屋の行き帰りと限定されている。

そのため、曜日や時間帯の拡大を検討されているが、米原市でも指摘を受けたように日本版ライドシェアには根本的な課題があるように思われる。国においても再検討をお願いしたい。

### 主な事前質問等

◇実証運行及び本格運行に要する事業費及び国県等からの補助は

- ・当初予算

R6 年度…歳出 44,000 千円(内 29,000 千円は地域公共交通確保維持改善事業補助金)

R7 年度…歳出 31,600 千円(内国補助金 15,800 千円)

県補助はなし

◇メリット・デメリット、課題は

- ・メリット…委託事業により運行経費は安価
- ・デメリット…ドライバーが不足しており確保が困難
- ・課題…経費の縮減と運営体制の効率化

◇他の交通機関との連携や苦慮  
特になく協力的

#### **その他の主な質疑**

- ・地域活性化協議会が学識経験者(名古屋大学教授)を中心によく協議されている。
- ・コロナ禍でタクシー事業者が夜間運行を減少し、週末のタクシー不足が発端となり事業化された。
- ・市外料金の設定は車のナビで計算している。